

## (参考1) 各拠点の概要・取組

北海道・東北	(1) ねぶたの家 ワ・ラッセ	【青森】	P26-
	(2) 遠野ふるさと村・遠野伝承園	【岩手】	P28-
関東	(3) さいたま市大宮盆栽美術館	【埼玉】	P30-
	(4) 日本科学未来館	【東京】	P32-
	(7) 歌舞伎座ギャラリー	【東京】	P34-
	(10) デジタルハリウッド大学	【東京】	P36-
	(11) 伝統工芸青山スクエア	【東京】	P38-
	(12) 杉並アニメーションミュージアム	【東京】	P40-
中部	(14) 森美術館	【東京】	P42-
	(16) 燕三条地場産業振興センター	【新潟】	P44-
	(17) 金沢21世紀美術館	【石川】	P46-
関西	(18) 国際デザインセンター	【愛知】	P48-
	(20) 東映太秦映画村	【京都】	P50-
	(21) 京都国際マンガミュージアム	【京都】	P52-
	(22) ナレッジキャピタル	【大阪】	P54-
中国・四国	(23) 白鶴酒造資料館	【兵庫】	P56-
	(25) 青山剛昌ふるさと館	【鳥取】	P58-
	(27) 山口情報芸術センター	【山口】	P60-
九州・沖縄	(28) ベネッセアートサイト直島	【香川】	P62-
	(29) ハウステンボス	【長崎】	P64-
	(30) 沖縄美ら海水族館・首里城	【沖縄】	P66-

※今回の調査対象拠点のうち、一般公開の許可を得たものを掲載

エリア : 北海道・東北  
 機能 : 情報発信 / 人材育成 / 地域連携  
 型 : エリア型  
 拠点種別 : 商業施設 / 観光・娯楽施設  
 分野 : 地域・伝統文化 / 観光

## (1) ねぶたの家 ワ・ラッセ : 拠点概要

街の発展を見届けてきたねぶた祭の歴史や魅力を余すことなく紹介し、ねぶたの全てを1年を通じて体感することができる"夢の空間"。青森市民の情熱に支えられ、守り育ててきたねぶた祭の歴史を過去、現在にわたり、人や街の姿を通して紹介している。ねぶたの制作技術や作風、題材の移り変わり、さらには、青森から世界へと発信していくねぶたの様子を知ることできる。



所在地 : 青森県
設立年 : 2011年
運営 : (公社) 青森観光コンベンション協会
設立趣旨 : 青森の象徴である青森ねぶた祭の保存・存続の拠点

年間来場客数等	-
訪日外国人旅行者数等	-
来場目的	-
実績	● 館内の入場者数はオープンから累計130万人を突破(2016年11月現在)

### 各観点での取組

情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>● パンフレット・HPの多言語化 (日本語・英語・韓国語・中国語(繁体・簡体))</li> <li>● 新聞・雑誌への広告掲載</li> <li>● テレビ番組、CM出演</li> </ul>
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学生向けインターンシップ・職場体験の受け入れ、校外学習、修学旅行の受け入れ</li> <li>● 市内小中学生の入場無料</li> <li>● 各種体験教室 (お囃子、金魚ねぶたづくりなど)</li> <li>● ねぶた講座の開催</li> <li>● ねぶた囃子講習会の開催</li> </ul>
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域文化振興の拠点としてプログラムを展開 (①ホームページでの広報宣伝、②郷土芸能ライブ・チャリティーライブの開催、③津軽笑っせ劇場への協力)</li> </ul>

## (1) ねぶたの家 ワ・ラッセ : 特徴的な点 他

地域と旅行事業者と協働した誘致プログラム（B2C、B2B）や、施設単体で収益化するために自主財源確保のイベントを展開。文化の継承と収益化の2つを両面で成り立たせるために事業を展開。

特徴的な点	<ul style="list-style-type: none"><li>●集客対策事業<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 旅行社及び県外小中学校へのセールス活動の実施</li><li>➢ 集客力強化のための検討及び実施</li><li>➢ 四季を通じたイベントの強化</li></ul></li><li>●職員研修・観光交流事業<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 近隣観光施設との連携・共通券の販売</li><li>➢ 先進観光地の視察研修</li></ul></li></ul>
-------	--

館内の様子「タッチねぶた」



館内の様子「展示ねぶた」



## (2) 遠野ふるさと村・遠野伝承園 : 拠点概要

遠野ふるさと村は、江戸～明治の茅葺屋根の曲り家を当時の形で移築、遠野の昔ながらの集落を再現。また近隣に位置する遠野伝承園では遠野地方の農家のかつての生活様式が再現されており、伝承行事、昔話、民芸品の製作・実演などが体験できる。



所在地 : 岩手県	年間来場客数等	● 約4.4万人
設立年 : 1984年	訪日外国人旅行者数等	● 未取得
運営 : (一社) 遠野ふるさと公社	来場目的	● 日本の伝統的な農家での生活を体験したい
設立趣旨 : 日本の伝統的な農業文化の発信	実績	● 年間の来客数は4.4万人を記録

### 各観点での取組

情報発信	● HP、地元観光協会拠点でのパンフレット設置が中心
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2010年に構造改革特区「にほんのふるさと再生特区」として、定着人材を増やし、伝統的な農産業の継承に努める</li> <li>● 地元の高校生が中心となって伝統的な遠野の文化・生活のあり方を伝えるワークショップを実施</li> </ul>
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地元商工会議所、民間企業、NPO、地域住民が一体となり、「日本の農村」をテーマにまちづくりを実施</li> <li>● 「東北ツーリズム大学」の活動拠点の1つとして地域間のネットワークを形成</li> </ul>

## (2) 遠野ふるさと村・遠野伝承園 : 特徴的な点 他

2001年に「遠野市デザイン2010」を策定し、2003年に「にほんのふるさと再生特区」の指定を受ける。日帰り客ではなく滞在型客増加、将来的な定着人材増加を目標に民宿施設の拡充、規制緩和を実施。

### 具体の取組

#### 特徴的な点

- 体験施設農産業の振興の後押し
  - 遠野エリアの伝統的な民家である「曲がり家」を移築。かつての暮らしを体験できる実践的な施設としてオープン
  - 村内では、来訪者に建物を見学してもらうだけでなく、染め物体験や郷土食作り、農作業など実際の農村生活を体験できるプログラムを用意
  - ボランティアとして「まぶりっと（守り人）」と呼ばれる地域の高齢者を雇用しており、来訪者への説明や体験プログラムのインストラクションを実施
- 農産業の振興の後押し
  - 農家民泊によるどぶろく製造の免許取得支援（手続などのマニュアル化、申請業務の支援）
  - 農地貸付方式による農業経営の参入障壁の軽減促進、農地面積制限の緩和
- 「東北ツーリズム大学」の拠点としてのネットワーク形成
  - 東北の各地域の類似施設と連携し、座学だけでない体験を通じたグリーンツーリズムの習得を支援
  - 2004年から継続実施しており、関わる人材間の交流、地域間のネットワークの形成に役立っている

園内の様子「遠野ふるさと村」



園内の様子「遠野伝承園 菊池家曲がり家」



### (3) さいたま市大宮盆栽美術館 : 拠点概要

開館当初は国内客をターゲットに想定していたが、欧米を中心とした海外での盆栽への興味の高まりを背景に外国人来場者が急増。さいたま市・経済産業省等と連携し、訪日外国人に向けた観光資源として戦略的な活用に注力している。



所在地 : 埼玉県さいたま市
設立年 : 2010年
運営 : さいたま市(さいたま市大宮盆栽美術館)
設立趣旨 : さいたま市の伝統産業にも指定されている盆栽の文化を広く内外に発信すること

年間来場客数等	● 約7.3万人
訪日外国人旅行者数等	● 約0.4万人
来場目的	-
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 盆栽世界大会の誘致成功 (2017年度開催予定)</li> <li>● 来館者は2014年(平成26年)には7.3万人を達成 (2012年比で150%増)</li> </ul>

### 各観点での取組

情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 公式HPの英語での情報発信、音声ガイド(英語、韓国語、中国) 整備、パンフレットの英語化</li> <li>● 受付及び団体ガイドは英語での対応が可能</li> </ul>
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 盆栽に関する知識と技術を体系的に学ぶ「盆栽アカデミー」の開講準備</li> </ul>
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大宮盆栽協同組合との協力により、美術館主催事業の実施、大宮盆栽の情報発信(美術館内での実技・ワークショップ・館外プロモーション など)</li> </ul>

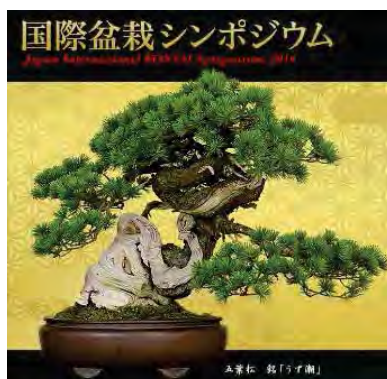
### (3) さいたま市大宮盆栽美術館：特徴的な点 他

貴重な観光資源である「盆栽」の文化を発信する総合拠点として国内外への積極的な情報発信、市主催の盆栽文化普及事業を継続的に実施。国内他拠点で生産される盆栽とは異なる魅力を訴求することで「大宮盆栽」としてのブランディングの確立を推進している。

#### 具体の取組

特徴的な点	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 積極的な情報発信           <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 庁内の関係課（観光国際課、スポーツ振興課、シティセールス部、東京事務所等）と連携し、館外出張形式でPR活動を実施</li> <li>➢ 国際盆栽シンポジウム（「世界のBONSAI文化 – 人はなぜひかれるか」）を実施。海外からの有識者を交えたパネルディスカッションや狂言プログラム等を英語・イタリア語での同時通訳で提供</li> </ul> </li>   <li>● 産業振興と盆栽の普及のための活動           <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 盆栽文化を体系的に学べる教育機関「盆栽アカデミー」の開設を予定</li> <li>➢ 2013年に基礎調査を実施し、翌年基本構想・基本計画を策定</li> <li>➢ 策定に当たっては、盆栽園へのヒアリング、教育機関の有識者を交えた検討会を実施し、幅広い専門的な知見を反映</li> </ul> </li>   <li>● 地域の他の事業者との連携           <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 美術館周辺の盆栽村が中心となり、関東近辺の盆栽業者が一堂に会して「大盆栽まつり」を開催</li> </ul> </li> </ul>
-------	--

国際盆栽シンポジウム 2016  
 「世界のBONSAI文化 – 人はなぜひかれるか」



2017年には「世界盆栽大会」の開催を予定



## (6) 日本科学未来館 : 拠点概要

日本科学未来館では、「科学技術と社会を結ぶ場の創造」の理念に基づき、産官学での協働でのプログラム企画、国内外の科学館、海外の科学系拠点との強固なネットワークを形成。



所在地 : 東京都江東区
設立年 : 2001年
運営 : 国立研究開発法人科学技術振興機構
設立趣旨 : 科学技術を文化として捉え、私たちの社会に対する役割と未来の可能性について考え、語り合うための、全ての人々に開かれた場

年間来場客数等	● 平均約100万人
訪日外国人旅行者数等	—
来場目的	—
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 来館者数は、146万人を記録(2015年度)</li> <li>● 訪日外国人旅行者の来館増のほか、世界各国からの重要人物の視察等を受け入れるなど、日本の科学技術情報を発信</li> <li>● 世界各国の科学館と連携し国際的な共創ワークショップを主導的に実施</li> </ul>

### 各観点での取組

情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 公式HPの多言語での発信(英語、中国語、韓国語)</li> <li>● シンボルとなる展示が背景に映る場所を館内のフォトスペースとして整備し、来館者のSNS投稿を通じたプロモーションを促進</li> </ul>
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 来館者への展示解説やイベント企画などを通じて、科学者や技術者と来館者をつなげる「科学コミュニケーター」の育成を実施</li> <li>● 日本の科学技術を担う次世代育成のために、主に国内の小学生～大学生に向けた先進的な教育施策を展開</li> </ul>
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 科学技術振興に関する公的機関であるため、研究機関・教育機関などとの提携を推進</li> <li>● 先端技術を開発している民間企業が行うB2C向けのプログラムやイベントの運営に名を連ねることも多く、官民連携の施策を数多く実施</li> </ul>



## (6) 日本科学未来館：特徴的な点 他

「科学技術と社会とをつなぐ」という理念に基づき人材育成・人材交流に熱心に取り組む。常設展では「問い、考え、行動する」というコンセプトのもと、来館者の思索を促す、世界でも類を見ないサイエンスミュージアムを目指している。

### 具体の取組

特徴的な  
点

- **国内の科学館・教育機関との提携**
  - 全国約180館が加盟する科学館ネットワーク組織のハブとして機能
  - 地方自治体や教育委員会を巻き込んだ継続的な連携体制を構築
- **海外の科学館・教育機関との提携・協力体制**
  - 海外科学館との人材交流を実施
  - 国際的な科学館会議への参加、実施（北米・欧州・アジア等）
  - 展示巡回、コンテンツおよび教育プログラムの普及展開
- **民間企業協働プログラム：パートナーシップ制度**
  - 協賛金 + CSRプログラムを共同で開発等
- **他領域の事業者からの積極的な情報収集**
  - SNS・アプリなどを導入する際、先行事例へのヒアリングを実施
  - 国内のメディア関係者と定期的に情報交換

シンボル展示「ジオ・コスモス」



SNSの積極的な活用



エリア : 関東  
 機能 : 情報発信 / 地域連携  
 型 : シンボル型  
 拠点種別 : 観光・娯楽施設 / 美術館・博物館  
 分野 : コンテンツ・アート / 地域・伝統文化 / 観光

## (7) 歌舞伎座ギャラリー : 拠点概要

歌舞伎の情報、歌舞伎の衣裳、小道具や日本の伝統歌舞伎に関わる展示を実施。日本の代表的な伝統芸能である「歌舞伎」に親しんでもらえるような取組や、プログラムを実施。訪日外国人向けに日本の伝統文化を知ってもらう機会としての拠点を目指している。



年間来場客数等	—
訪日外国人旅行者数等	—
来場目的	● 歌舞伎に興味があるから
実績	—
所在地 : 東京都中央区	
設立年 : 2013年	
運営 : 松竹株式会社	
設立趣旨 : 歌舞伎に親しんでもらい、歌舞伎ファンを増やすこと	

### 各観点での取組

情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 公式HPの英語対応、SNS (Facebook、Twitter) 上での情報発信</li> <li>● 施設周辺でのポスター掲示、近隣ホテル・観光案内所へのチラシ配布</li> <li>● 外国人向け歌舞伎レクチャーを不定期開催</li> </ul>
人材育成	—
地域連携	● 併設する歌舞伎座で公演中の演目に関する展示や企画展を実施

## (7) 歌舞伎座ギャラリー：特徴的な点 他

歌舞伎座劇場を中心とした商業施設「歌舞伎座タワー」内の5階に位置しており、同フロア内には、歌舞伎役者体験ができる撮影スタジオも併設。同タワー内の他店舗と連携し、歌舞伎の魅力を発信する拠点としての機能を担っている。

### 特徴的な点

- インバウンド旅行客の取り込みに向けた取組
  - 大手ホテル事業者と組んで宿泊施設特別プランを提供
  - 歌舞伎仕様の客室、歌舞伎座ギャラリー、飲食店、写真スタジオでの特別プログラムを通じて、歌舞伎の世界観を体験することができる
- 歌舞伎座劇場と連動した運営方針
  - 企画展のテーマや歌舞伎座で上演中の演目と連動した約30分程度のミニレクチャー等を開催
- ギャラリーの入場チケットを購入すれば、歌舞伎のチケット無しでも歌舞伎座劇場への入場が可能なシステム

館内の様子



館内の様子

